

地方創生拠点整備交付金効果検証について

(事業実施年度:平成28年度～令和2年度、効果検証年度:令和3年度)

対象事業名	総合戦略のKPI (重要業績評価指標)	事業概要	事業費 (単位:円)	交付金 充当額 (単位:円)	成果指標			【1】効果検証(4段階評価) ①地方創生に非常に効果があった。 ②地方創生に相当程度効果があった。 ③地方創生に効果があった。 ④地方創生に効果がなかった。	【2】外部有識者による評価(2段階評価) ①総合戦略のKPI達成に有効であった。 ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない。	【3】今後の方針(5段階) ①追加等更に発展させる ②事業内容の見直し(改善) ③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定通り事業終了
					指標	目標値	実績値			
東松山ぼたん園 オールシーズン 化リノベーション 事業	【基本目標・数値目標】 人口:令和2年 90,300人 年間観光入込客: 令和2年 260万人 市内事業所数: 令和2年3,514事業所 市内従業者数: 令和2年 36,550人 転入者数: 19,800人 (平成27年度～令和 2年度合計)	東松山ぼたん園において、ぼ たんの開花時期の収益確保 と開花時期以外にも多くの集 客が見込める施設へ再生さ せるため、マーケットデッキや テラス、展望台、園路の整備 を行い、施設のリノベーション を図る。集客力の向上による 収益の確保に加え、産業分 野との連携強化や、地域住 民の活躍の場を創出すること で、地方創生の方向性である 観光・産業・子育ての取組を 一体的に進めるための拠点 として整備する。	101,038,320	21,154,398	年間の来園 者数(人)	(H29) 20,000 (H30) 36,000 (R1) 50,000 (R2) 50,000	(H29) 59,074 (H30) 67,135 (R1) 74,830 (R2) 55,940	③地方創生に効果があった。	①総合戦略のKPI達成に有効であった。	⑤予定通り事業終了
					有料期間中 の入園料金 収入(千円)	(H29) 6,500 (H30) 8,000 (R1) 9,500 (R2) 10,000	(H29) 8,629 (H30) 5,336 (R1) 5,845 (R2) 0	○整備内容 交付金対象経費としてマーケットデッキ、テラ ス、展望台、管理施設の整備を行った。 平成30年3月工事完了 交付金充当額(21,154,398円) 平成30年度にリニューアルオープン。天候 に恵まれず、開花期間中の入園料金は減少 した。一方で子ども連れで楽しめる公園とし て認知されるようになり、年間の来園者数は 67,135人となった。 施設整備後も、ぼたんの質を高める土壌改 良工事を継続して実施している。平成31年度 から指定管理者制度に移行し「東松山ぼた ん園パートナーズ」が運営している。 年間を通してイベントを開催したことにより、 令和元年度の来園者数は74,830人と目標を 大きく上回った。 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響 により、休園期間があったため、入園者数は 目標値を超えたものの、有料期間は休園とし たため収入はなかった。	・入園料については、新型コロナウイルス 感染症と天候の影響を受けている。 ・来園者数についても同様であるが、コロ ナ以前では目標を上回っている。 ・市内周遊のため観光資源間の連携を高 める仕組みが必要と思われる。 ・メディアなどへPRが必要。	地方創生拠点整備交付金の対象 事業としては、予定通り事業終了。 【今後】 休日には大型遊具で遊ぶ親子連 れでにぎわっており、人気スポット として定着しつつある。引き続き、 新型コロナウイルス感染拡大防止 に配慮しつつ、イベント等の開催に より四季を問わず楽しめる公園とし て、その魅力を発信し、交流人口 の獲得を目指す。
東松山市化石と 自然の体験館観 光交流拠点事業	【基本目標・数値目標】 人口:令和2年 90,300人 年間観光入込客: 令和2年 260万人 市内事業所数: 令和2年3,514事業所 市内従業者数: 令和2年 36,550人 転入者数: 19,800人 (平成27年度～令和 2年度合計)	化石と自然の体験館を増築 し、市南部の観光拠点化を図 る。新たに観光情報提供や観 光客が気軽に立ち寄り休憩 できるスペースを設け、施設 の機能を複合化することによ り、新たな誘客に加え、観光 客を周辺施設に誘導する流 れを生み出し、地域全体の観 光を牽引していく。施設整備 にあわせた効果促進としてオ リジナル商品の開発を行い、 施設の稼働力を向上させる。	23,058,000	10,737,900	年間観光入 込客数(万 人)	(H29) 235 (H30) 240 (R1) 245 (R2) 250	(H29) 268 (H30) 265 (R1) 255 (R2) 169	③地方創生に効果があった。	①総合戦略のKPI達成に有効であった。	⑤予定通り事業終了
					化石と自然 の体験館利 用者数(人)	(H29) 16,500 (H30) 18,000 (R1) 19,000 (R2) 20,000	(H29) 16,600 (H30) 21,122 (R1) 19,186 (R2) 4,571	○整備内容 【施設整備】 観光拠点化するため既存施設の改修及び増 築を行い、展示スペース、事務・バックヤ ード、収納スペース、屋外多目的スペースを整 備した。 平成30年1月工事完了 交付金充当額(10,530,000円) 【効果促進】 オリジナル商品開発を委託し、11品目の商品 を開発した。 交付金充当額(207,900円) 平成30年度リニューアルオープン。観光情 報の発信やオリジナル商品の販売を開始し たことにより、施設の魅力が向上。体験館利 用者数は21,122人となった。発掘体験も順 調に増加していることから、体験料収入も目 標を大きく上回る結果となった。 平成31年2月には体験者数が累計3万人、 11月には4万人に到達。来館者の大半は市 外からの来館であり、市の新しい観光スポ ットとなっている。 令和2年度は新型コロナウイルスの影響に より、観光入込客数は大幅減となった。市内 施設についても休館及び人数制限を実施し たため、利用者数及び収入は目標値を下回 る結果となった。	・新型コロナウイルス感染症の影響を受 けている。 ・コロナ以前では目標を上回っている。 ・市内周遊のため観光資源間の連携を高 める仕組みが必要と思われる。 ・メディアなどへPRが必要。	地方創生拠点整備交付金の対象 事業としては、予定通り事業終了。 【今後】 新型コロナウイルス感染症拡大 防止に伴う休館があったにも関わ らず、予約がとりにくい状態であり 人気を得ている。 令和3年度より指定管理者制度に 移行し「(一社)東松山市観光協会」 による運営となった。新型コロナウ イルス感染拡大防止に配慮しつ つ、観光拠点としての機能強化、周 遊促進などをさらに進めていく。

地方創生拠点整備交付金効果検証について

(事業実施年度:平成30年度~2年度、効果検証年度:令和3年度)

対象事業名	総合戦略のKPI (重要業績評価指標)	事業概要	事業費 (単位:円)	交付金 充当額 (単位:円)	成果指標			【1】効果検証(4段階評価) ①地方創生に非常に効果があった。 ②地方創生に相当程度効果があった。 ③地方創生に効果があった。 ④地方創生に効果がなかった。	【2】外部有識者による評価(2段階評価) ①総合戦略のKPI達成に有効であった。 ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない。	【3】今後の方針(5段階) ①追加等更に発展させる ②事業内容の見直し(改善) ③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定通り事業終了
					指標	目標値	実績値			
儲かる次世代農業拠点整備事業	【基本目標・数値目標】 人口:令和2年 90,300人 年間観光入込客: 令和2年 260万人	これまで花と自然の公園であった農林公園を新たな農業振興の拠点として位置づけ、主に農業人材を育成する農業研修機能を核とした施設にリニューアルする。また、地域農産物のブランド価値を創造する農産物加工開発機能、収穫体験を通じて農業の魅力をPRする農業体験機能、緑豊かな農村での余暇活動を推進するグリーンツーリズム機能を付加し、農業の生産性を向上させる拠点施設として整備を行う。	523,673,640	257,573,184	農林公園における農業生産額(千円)	(R1) 4,725	(R1) 4,729	③地方創生に効果があった。	①総合戦略のKPI達成に有効であった。	③事業の継続
					農業研修生数(人)	(R2) 15,311	(R2) 19,142			
					有料農林業体験者数(人)	(R1) 2 (R2) 5	(R1) 5 (R2) 7	<p>○整備内容 高度環境制御型温室、農産物加工体験施設、直売施設の新築をはじめ、体験・研修農場や果樹園等の整備。 高度環境制御型温室については、使用する建築資材(高力ボルト)の入荷が遅れたため、令和元年7月に工事が完了。 交付金充当額(257,573,184円)</p> <p>○運営状況 令和元年8月1日供用開始。露地野菜の収穫体験やひまわり迷路イベントの開催、研修センター等の貸館を行った。12月には温室でのイチゴの摘み取り体験を開始し、体験者数は6,000人を超えた。また、農業研修は露地野菜とイチゴについて栽培から収穫体験までの研修を実施した。</p> <p>令和2年8月より指定管理者制度に移行。民間のノウハウを活用した「イチゴの摘み取り体験」「丘の上のカフェ」などの運営を行うことで、新たな観光スポットとして定着した。農業研修生は増加したものの、新型コロナウイルスの影響により有料農林業体験者数の増加には繋がらなかった。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。</p> <p>・コロナ以前では目標を上回っている。</p> <p>・市内周遊のため観光資源間の連携を高める仕組みが必要と思われる。</p> <p>・メディアなどへPRが必要。</p>	<p>魅力ある公園とすることで多くの人に訪れてもらい、農業の魅力を知らしてもらい賑わいの創出に繋がっていく。</p> <p>新型コロナウイルスの感染防止に配慮しつつ広く魅力を発信していくことで、引き続き「農業振興」「観光振興」を図っていく。</p>